

20xx年。地球は平和を謳歌していた。

「こんばんは、お嬢様」

とある貴族階級の家、その一室での出来事であった。

「今宵は良き日で御座いますね。お、月もあの様に」

地球は、突如としてやってきた異星人に攻撃を受けた。

「!? ぶっおー」

「ヒイアアアアアアアッ!」

異星人が地球に降り立ち、その初の犠牲者が出た瞬間であった。しかし、それだけではない。

「アアアアアアアッ!」

悲鳴を上げるお嬢様の口から炎が放たれ、眼前の異星人を焼き尽くした。人類初のレイデ因子覚醒者誕生の瞬間でもあった。

この中にニセ物のお嬢様が約一名紛れ込んでおります  
わ~~~~!!!

神々のあらしい

それから時は流れ、八年後。地球には再びかつての安寧がもたらされていた。次々と侵攻してきた異星人、「鮪男」と呼称されるその生命体は、頭が鮪、脚は蜘蛛、体は人間のようなパーツで構成されており、目に付いた人間を襲撃した。圧倒的な力と機動力を持つ鮪男の前に人類は滅亡するかと思われたが、人類にも希望が存在した。お嬢様だ。人類の必死の解析の結果、由緒ある血統のお嬢様のみが保有する「レイデ因子」というものが発見され、その研究が進み人類が勝利した。レイデ因子を保有する人間は鮪男に視認されなくなり、更に特殊能力にも目覚める。因子を持たない一般の人々も、レイデ因子の成分から精製したレイデ因子を所持していれば襲われなくなった。こうしてお嬢様とその庇護下に置かれている人民達は安全を手にし、鮪男と戦えるお嬢様が絶大な権

力を手に入れた。第一にお嬢様、第二に鮪男、第三に一般の人民、という新たなヒエラルキーが誕生。これぞパラダイムシフト。

八年が経ち跋扈していた鮪男もそのほとんどが倒されお嬢様にとつては完全な、一般人にとつてもかなりの程度の安全が確保されていた。今日はそんなお嬢様の功績と力を讃えて一年に一度行われるバトルトーナメント、「お嬢☆サマーカーニバル」が行われようとしていた。各家柄のお嬢様とその庇護下の人民が集い、お嬢様同士の対決をエンターテインメントとして楽しむ。お嬢様の威光を示すと同時に、行先のなくなった特殊能力を有効活用するためのビジネスでもあった。

会場には既に各家の人民のほとんどが入り、誰が勝つかという予想や自分が推しているお嬢様の話などで盛り上がりつつある。今年のお嬢☆サマーカーニバルには四人のお嬢様が出場する。各お嬢様の説明は司会に任せよう。ちなみに私の推しはお嬢☆スプリングだ。

「さあ今年もやってきましたお嬢☆サマーカーニバル! 司会が私、綿柳柴海でお送りいたします!」

司会が開会の宣言をする。人民達が一気に沸き立ち、会場のボルテージを高めていく。

「さあまずはお嬢様の紹介です! まずはこの方! 初代優勝者にして正統派お嬢様! 炎の力を自在に操る! お嬢☆サマー!!!」

「全て焼き尽くして差上げますわ!」

赤髪のお嬢様が威勢よく叫ぶ。お嬢☆サマーは正統派らしくすべての裾がフリルになった白い服を着ていて、手にはこれまたフリフリの日傘を持っている。

「続いてはこの方、バネの力で駆け巡る、お嬢☆スプリングー!!!」

「速さで決めます！」

続いて青い長髪のお嬢様が現れる。手足のバネの力が覚醒し、徒手での戦闘力が飛躍的に上昇したお嬢様、お嬢☆スプリングだ。長い手足で自由自在に飛び回り、青い長髪が舞うように踊る。身長は180センチと高い。背丈も手も足も髪も長い。長いものには巻かれない。ああ巻かれない！

「続いてはこの方、爆発するシャボン玉を生み出す、夢河 乙子ー！！！」

「みんなに魔法をかけちゃうぞ☆」

ピンク色の髪をしたお嬢様が人民達にウィンクを放つ。魔女のようなホウキに何やらファンシーなステッキ、頭には巨大なリボンと、見た目が忙しいお嬢様だ。

「最後はこの方、能力詳細不明のダークホース、華麗院 督療俐ー！！！」

「華麗院家の誇りをかけて！」

黄色い髪のお嬢様が片足飛びで現れる。頭にはシルクハット、服は裾の長いコート一枚だけのようだ。一体どのような能力なのだろうか。

「さあ四名のお嬢様方が出揃いました！ それでは……」

「グギャアアアー！」

その時だった。突如会場に悲鳴が響き渡る。全員の視線が向かったその先には、鮪男と襲われた人民がいた。

「何故ここに鮪男がいるんですの！？ 来場者には全員各人のレイデ団子を持たせているはずでしょう！」

お嬢☆サマーが司会に詰め寄る。その間に鮪男が二人目を襲撃した。今度は少し離れたところだ。鮪男は鮪の頭部をぐるぐると回し、周囲を確認している。

「ほとんどの人民はやはり視認されていない……？」

この場にいるのは各お嬢様の庇護下の人民だけである。

そして人民はそのお嬢様のレイデ団子を所持することで庇護の証とする。これらの事実から導かれる結論は……「この中にニセ物のお嬢様が約一名紛れ込んでおりますわくくく……！！！」

お嬢☆サマーの絶叫が響き渡った。

刹那、お嬢☆スプリングが跳ぶ。一瞬で鮪男の眼前に着地し、バネの力で異常な速度に達した拳を鮪男の腹部にぶち込んだ。鮪男は粉々に砕け散った。流石お嬢☆スプリング！ 美しい！

「片付けをお願いします」

お嬢☆スプリングは使用人にそう言い残し、再びステージへ跳んだ。華麗に。

「誰かが偽物だなんて嘘だ……」「誰なんだ……」

人民達がどよめく。それを静めたのは夢河乙子だった。

「私だ」

！？

「私が偽物のお嬢様だ」

あろうことか、夢河乙子が唐突に自白を始めた。想定外の行動に皆固まって動けない。

「私はお嬢様ではない！ 一般の人民だ。しかしそこにはいったい何の差異があるというのだ？ 皆同じ人間ではないか！ お嬢様のみが独占的に権力を握る時代はもう古い！ 今こそ人民達で立ち上ゴアッ！」

お嬢☆サマーが放った火球が夢河乙子を直撃する。膝から崩れ落ちる夢河乙子。それを見て、硬直していた人民達も再び動き出す。

「なんだお前帰れ！」「神聖な戦いの場を汚すな！」「お嬢様かと思ったら雄嬢様じゃねえーか！」「早く勝負を見せろー！」

怒涛の野次が飛び交う。人民達は現状を変えようとい

う意識よりも、能力者のお嬢様によるバトルパフォーマンスの方が大事なようだ。

「人民の分際で生意気ですわ！」

お嬢☆サマーが夢河乙子を消し炭にする。

「ヒューー！」「天誅だ！」「ナイスうー！」「二度と来んな！」

人民達は邪魔者の肅正に執狂し、更にテンションを上げる。夢河乙子はその正体も、目的もよく分からないままに消されてしまった。この世界ではお嬢様が絶対権力を持つており、法律は通用しない。能力を人民に乱用した所で、問題にはならないのだ。

「さあでは気を取り直して！ 予定を変更して三人のお嬢様方によるバトルロイヤル！ 皆様準備は良いですかくく……？」

会場が割れんばかりの拍手に包まれる。全ての人民が期待に目を輝かせる。戦いの火蓋が切って落とされた。

開始と同時に、お嬢☆スプリングが跳ぶ。一瞬で華麗院督療俐との距離を詰めると、至近距離から拳を打ち込み空の彼方へ吹き飛ばした。現在地は千葉だから、山梨に飛んだだろう。こうして早くもお嬢☆サマーとお嬢☆スプリングの一騎打ちとなった。会場から熱烈なコールが沸き起こる。「いけー！ お嬢☆スプリング！」お嬢☆スプリングは持ち前の速さで会場を一瞥し、お嬢☆サマーに突っ込む。お嬢☆サマーの撃ち出した火球を華麗に躲し、火の輪をくぐり、お嬢☆サマーの眉間に拳をお見舞いした。お嬢☆サマー戦闘不能！ よって勝者は……お嬢☆スプリング……！！！！

「バトル、スタート！」

もはや言うまでもないことであるが、勝つのはお嬢☆

スプリングである。私の綿密な計算に狂いはない。事前  
に何度もシミュレーションし、これ以外のヴィジョンが  
見えなかったのだ。やはりお嬢☆スプリングは素晴らし  
い。

「ゲギヤア！」

お嬢☆スプリングは悲鳴も素晴らしい。は？

「お嬢☆スプリング戦闘不能！」

華麗院督療俐が創り出した巨大なちくわによる一撃を  
受けて、お嬢☆スプリングは破れてしまった。来年また  
頑張ろう！

お嬢☆スプリングを一撃で倒した華麗院督療俐を警戒  
し、お嬢☆サマーは背中から腕を二本追加し臨戦形態に  
なる。両者の間に緊張が走った。次の瞬間、華麗院督療  
俐からお嬢☆サマーへ、一直線にちくわの幻影が伸びる。  
大きすぎる破壊の予兆！ 負けじとお嬢☆サマーも持て  
るすべての火力を手の中に込める。二つの大いなる力が  
相対し、極限まで高まった。今年の勝者が決まる！

その時であった。俄かに地面が窪み、何かが地面を突  
き破って飛び出した。土竜の頭に、人間の胴体……蛸の  
脚！？ 新手の鮪男だろうか。

突如地中から現れたその生命体は、ステージ上の二人  
のお嬢様めがけて襲い掛かる。構えを解いて土竜男と戦  
闘する二人のお嬢様。その間に空いた穴から次々と土竜  
男が飛び出し、会場の人民達を次々と襲った。会場は壊  
滅的な被害を受けた。

突如地中から出現した土竜男は、お嬢☆サマーカーニ  
バルの類まれなるレイデ因子エネルギーの高まりによつ

て覚醒し、発生したことが分かった。土竜男は鮪男とは  
違いレイデ因子に過剰反応、襲撃する習性を持つことも  
判明した。しかしそれらは何の意義もない情報である。  
お嬢様という力を失った人類にもはや抵抗するすべはな  
く、地球はやがて鮪男と土竜男のものとなった……。